

## 1997年(第29回)金沢医科大学\*1

角 家 暁\*2

1997年の第29回大会は、7月17日、18日の両日、金沢市文化ホールにおいて、金沢医科大学学長小田島肅夫大会長、同大学病院長角家 暁実行委員長、同大学副学長大谷信夫運営委員長の下に行われた。基調テーマは、最近の医学・医療の進歩に加えて、これまでの伝統的な生命観を揺るがす生命倫理の問題が提起され、これに対応するために、医療体制や医学教育のあり方に新しい考え方や工夫が必要となっており、この時代的ニーズを考えるとその基本には幅広い教養をもつ、人間性豊かな良医の育成が求められていると考え、「良医を求めて」とした。

特別講演は「21世紀を展望した日本の大学教育」と題して、前東北大学総長の西澤潤一先生にお願いし、学会長および学会運営委員会の承諾を得て、会員のみでなく地元大学・高校の関係者をはじめ一般にも公開された。西澤先生は創造力と大学教育の重要性を情熱的に語りかけ、多くの聴衆に感銘を与えた。

シンポジウム1)「医学教育におけるリベラルアーツ」では、3名の演者から、医学教育におけるリベラルアーツの重要性が強調され、現状分析に基づいた問題点の指摘と、これを解決するための具体的な提言がなされ、文部省高等教育局医学教育課長の特別発言があった。

シンポジウム2)「総合診療科と臨床教育」では、6名の演者から、コミュニケーション、態度教育などの基本的な臨床教育が求められている現状、卒前臨床教育および、初期臨床研修医の総合診療科での教育の方法と効果、などの発表があり、

総合診療部門が卒前卒後の臨床教育に果たす役割について検討がなされた。

パネルディスカッション「これからの基本的臨床技能の教育のあり方」では、6名の演者から卒直後の水準、各施設での臨床技能教育とその評価、外国での教育法の紹介などの発表があり、基本的臨床技能の教育の目標、方略、OSCEの方法について活発な討論がなされた。

ワークショップ「卒前医学教育におけるSGLの利点・欠点」では、6名の演者から各大学のSGLの目的、方法、評価の報告があり、形式は類似するSGLもその内容はさまざまであることが明らかとなった。また、教員の意識改革やテュータ養成の必要性が強調された。

要望演題は「初期(低学年)医学教育」(14題)、「カリキュラム改善方策」(7題)、「自己学習支援ツールの開発」(4題)、「インフォームド・コンセント」(3題)、「クリニカル・クラークシップ」(4題)、「臨床教育としての地域医療」(4題)、「初期臨床研修」(16題)が選ばれ、計52題の発表があり、また、一般演題は「カリキュラム」(4題)、「体験実習」(5題)、「OSCE」(5題)、「SP・面接技法」(5題)、「臨床実習」(7題)、「医師国家試験」(3題)、「卒後研修・生涯教育」(5題)、「緩和ケア・ホスピス」(4題)、「看護教育」(5題)、「その他」(5題)の計48題の発表があり、それぞれ活発な討論が行われた。

参加者総数は、登録者519名(うち学生24名)を数えた。

\*1 The 29th Congress of Japan Society for Medical Education (1997), Kanazawa Medical University  
キーワードズ：日本医学教育学会大会、第29回、1997年

\*2 Satoru KADOYA 金沢医科大学